

表彰

阿部正彦先生を日本油化学会 名誉会員に推戴のこと



阿部正彦先生は、1970年に東京理科大学工学部工業化学科を、1972年に同大学大学院工学研究科工業化学専攻を修了されました。その後、千葉県野田市に開設された同大学理工学部工業化学科の助手として奉職され、荻野圭三教授とともに界面活性剤に関する研究を精力的に進められました。1984年に「硫酸アルキル塩による油性物質の可溶化」のタイトルで博士学位を取得されています。

阿部先生は、学生時代から一貫して界面活性剤の溶液物性や分子集合体形成や油溶性物質の可溶化について研究を進められており、特に界面活性剤混合系で形成する混合ミセルに関する先駆的な研究を行われています。また、1984年より1年間アメリカ・テキサス大学オースチン校に博士研究員として滞在され、石油高次回収を目的としたマイセラーポリマー攻法に関わるマイクロエマルジョンの調製と物性に関する研究を開始されました。帰国後は、上記のマイクロエマルジョンに関する研究を継続・発展させるとともに、化学と薬学の境界領域に位置しているリポソームの研究を、特に内水相の保持効率を向上させるためのリン脂質とその関連物質との相互作用に注目して研究を進められ、顕著な業績をあげられています。1997年に教授になられてからも、従来の炭化水素系界面活性剤にはない機能発現を目的としたフッ素系界面活性剤の溶液物性、界面活性剤を添加していない分散系であるサーファクタントフリーエマルジョン、超臨界二酸化炭素流体中におけるマイクロエマルジョンの物性など、非常に幅広い分野で先駆的な業績を上げられました。これらの業績により、2002年に日本油化学会賞を受賞されています。

阿部先生は、現在も東京理科大学総合研究院教授として、界面化学の知識や技術の新たな可能性を探索されて

いらっしゃるとともに、学内初のベンチャー企業（アクティブ株式会社）の副社長としても活躍されています。

阿部先生は、本誌読者の多くの方がご存知のように、多くの学協会にて要職を歴任されていますが、油化学会に対しても、大きなご貢献をされています。企画委員会委員からはじまり、総務委員会委員、編集委員会委員、界面化学部会幹事、関東支部幹事、論文賞推薦委員会・委員長などを務められました。また、古くからの学会誌であった「油化学」誌を、情報誌である「オレオサイエンス」誌と、論文誌（英文）である「Journal of Oleo Science」の2つのジャーナルに分割するのもにも貢献され、2000年4月～2003年まで、編集委員会・委員長を歴任されました。

また、1998年～2006年には理事、2007年～2011年には副会長、そして2011年～2013年には会長を歴任され、この間、学会の運営・活性化に多大な貢献をされました。さらに、年会、国際会議開催の実行委員長としても、2006年には第45回日本油化学会年会（野田）の実行委員長、2012年にはWorld Congress on Oleo Science (WCOS 2012)の組織委員長を務められ、油化学会の世界的なプレゼンスを高めることに大きく貢献されています。日本油化学会が編纂した「油化学辞典－脂質・界面活性剤－第1版および第2版」の編集委員会・委員長、また「界面と界面活性剤－基礎から応用まで－」の編集委員会・委員長も務められています。

以上のように、オレオサイエンス・界面化学の分野における優れたご業績と日本油化学会に対する長年のご貢献に対して、阿部正彦先生を本会の名誉会員に推薦させていただきます。今後も、阿部先生がご健康で活躍されることを祈念いたします。

（東京理科大学教授 酒井秀樹）